

GPA制度による修学指導・助言について

GPA制度

GPAとはGrade Point Averageの略で、アメリカの大学で開発され、今日では世界基準の成績評価基準として定着しつつあります。日本の多くの大学においてもこの制度が導入され、学生はこのGPAを用いて各種の支援（留学生基準判定、成績優秀者表彰など）を受けることが可能となり、本学では、2009年度から導入されています。

第一の目的は、評価基準に基づく厳格な成績評価をおこない、その成績評価結果を学生に明確に示すことにあります。この制度は、日本の大学の国際的通用性を質的に確保する観点から、文部科学省も重要な施策として各大学に導入を推奨しています。

学生にとってのメリットは、自分の学修努力が平均ポイントという形でわかりやすく、かつ厳格公正に評価されることでしょう。そのポイントを知ることで、自分の勉強方法の見直しに役立てましょう。また、大学側も学生のポイントを参考にして、学生の修学指導を効果的に行うことができます。

成績評価

科目ごとにGPA制度による基準で下表のように成績評価がおこなわれます。

可否	評価基準	「成績通知書」 評価表示	「成績証明書」 評価表示	GP (Grade Point)
合格 (単位修得)	100点～90点	秀	秀	4.0
	89点～80点	優	優	3.0
	79点～70点	良	良	2.0
	69点～60点	可	可	1.0
不合格	59点～1点	不可	表示 されません	0
	0点	不×		0
	失格 (授業出席日数不足など)	失格		0

※評価基準（点数）は、成績通知書に表示されません。

※「失格」科目の単位数もGPAのポイント計算の単位数に含まれます。

GPAの計算例

$$\text{GPA} = \frac{(\text{科目の単位数} \times \text{成績評価グレードポイント}) \text{の総和}}{\text{登録科目の総単位数 (不合格科目の単位を含む)}}$$

※全科目を90点以上で合格すれば、GPAは4.00（最高点）
 全科目を60点（単位取得最低点）で合格すれば、GPAは1.00
 全科目不可の場合GPAは0.00

【GPAポイント計算例】

授業科目名	単位数	評価	ポイント数
ことばと日本文化	2単位	優	2単位×3.0P=6.0P
歴史と国際情勢	2単位	秀	2単位×4.0P=8.0P
人間と哲学	2単位	優	2単位×3.0P=6.0P
英語I	1単位	良	1単位×2.0P=2.0P
ドイツ語I	1単位	可	1単位×1.0P=1.0P
健康の科学	2単位	優	2単位×3.0P=6.0P
職業人入門	2単位	優	2単位×3.0P=6.0P
経済学概論	2単位	不可	2単位×0P=0P
経済史	2単位	良	2単位×2.0P=4.0P
合計	16単位		39.0P

◎上記の科目を履修した学生のGPAは（平均グレードポイント）は、
 $39.0P \div 16 \text{ 単位} = 2.44P$ となります。 ※小数点第3位四捨五入

GPA制度を活用した修学指導

本学では、各学期の学業成績がGPA1.0未満の学生に対して、担当教員より次学期履修登録までに個別面談を通じて、指導・助言をおこないます。

また、2年次から3年次への進級に際しても、GPA評価により、該当する学生に対して、担当教員が個別面談を実施します。その個別面談の結果を、進級判定に活用いたします。